

〔Ⅱ〕 健康診断のあり方への一考察

—— 諸検査の目的・意義に対する生徒の理解を知る ——

服部 祐子・高橋 香澄

○ はじめに

学校における健康診断は、生徒の健康・発育の状態を把握し、それに基づいていろいろな事後措置を実施し、子どもたちの学校生活における健康の保持増進を図ろうとするものである。「健康診断」は、昭和33年に学校保健法が制定されるまでは、「身体検査」と呼ばれており、主に身体形態上の評価や疾病異常の発見をねらいとしていた。しかし、法制定後は、保健管理のみならず保健教育が重視されたために「健康診断」と改称された。そして特にその事後措置に重点がおかれた。つまり疾病異常者の発見、治療の勧告だけでなく、生徒自身に健康・発育の状態を理解させて健康の保持増進を心がける態度を養わせようとするものである。そしてその態度を教育活動にフィードバックすることを健康診断の本来の目的とした。従ってその目的を達成するために生徒の健康診断への積極的な姿勢が必要となってくる。しかし、現状はどうであろうか。生徒は毎年受検しているにもかかわらず、何のために検査をするのか考えることもなく、ただなんとなく受検し、その結果についても無関心のようなのである。そんな点から健康診断に対して極めて消極的、受身的な態度がうかがわれる。そこでここでは、生徒の健康診断にとりくむ姿勢について考察する1つの資料として、健康診断における諸検査の目的・意義をどのように理解、認識しているかを明らかにしようとするものである。

○ 調査対象と方法

- (1)対象 本校中学1年90名、2年84名、計174名の生徒
- (2)方法と調査内容
 - ・健康診断諸検査の目的について自由記述式の質問紙調査法
 - ・調査内容と対象学年
 - 1) 身体計測 1, 2年
 - 2) 尿検査 1, 2年
 - 3) 内科検診 1, 2年
 - 4) ツベルクリン反応検査 2年
- (3)調査時期 昭和55年4月中旬と下旬の2回

○ 調査結果と考察

(1)身体計測の目的の認識

表Ⅰは「身体計測は何のために行うのですか」の質問に対する回答を示したものである。

表Ⅰ 身体計測の目的の認識

| | 中 1 n = 90 | 中 2 n = 82 |
|----------------------|---------------|---------------|
| 1. 身体の高さや成長の度合いを知る | 54 (60.0) | 53 (64.6) |
| 2. からだのつきあいがとれているか知る | 12 (13.3) | 7 (8.5) |
| 3. 平均値をだして、他と比較する | 8 (8.9) | 3 (3.7) |
| 4. 身長順位をきめる | 2 (2.2) | 0 (0) |
| 5. 健康のため | 11 (12.2) | 6 (7.3) |
| 6. D. K, N. A | 3 (3.3) | 13 (15.9) |

()は%

「身体の高さや成長の度合いを知る」と回答した者が両学年とも多く、約60～65%を占めている。次に多かった回答は「からだのつきあいがとれているか知る」であり、これは自分の体型に関心が高く、自分のからだが高すぎるか、やせているか調べるためのものだと思っている者である。そのような点から女子に多くみられると思ったが、両学年とも男女ほぼ同率である。中には「正しい発育をしているか調べる」というわずかに計測の目的の本質に沿うような回答をしている者がいたが、反対にまったく本質とはかけ離れた回答で「平均値をだすため」「背の順番を決めるため」と考えている者もいた。ほとんどの者は、単純に背が伸びたか、体重が増えたか、高くなったか、やせたか調べる検査と考えているようだ。したがって身体計測は発育経過をみて発育評価をすることで疾病異常の発見の動機になる重要な検査であることを教える必要があると思う。

(2)尿検査の目的の認識

表Ⅱは「尿を調べてどんなことがわかりますか」の質問に対する回答を示したものである。尿検査の本来の目的である「腎臓病の発見のため」と答えている者は、両学年とも約20%であった。最も多くの回答は「尿の中にばい菌やぎょう虫がいるか調べる」であり、特に中1では約半数の者がそう考えていることに驚く。

表一Ⅱ 尿検査の目的の認識 ()は%

| | 中 1 n = 9 0 | 中 2 n = 8 2 |
|-------------------------|----------------|----------------|
| 1. 腎臓病の発見 | 18 (20.0) | 17 (20.7) |
| 2. 糖尿病の発見 | 11 (12.2) | 14 (17.1) |
| 3. 尿の中にばい菌やぎょう虫がいないか調べる | 44 (48.9) | 23 (28.0) |
| 4. 体に異常はないか調べる | 4 (4.4) | 12 (14.6) |
| 5. 腹部の病気を調べる | 3 (3.3) | 1 (1.2) |
| 6. D. K, N. A | 10 (11.1) | 15 (18.3) |

これは、たぶん尿検査を小学校まで行われていた検便の目的と同一視していること、またなんらかの尿の異常を調べるのだが「尿中のたん白を調べて腎臓の異常を調べる」とは理解されていないことをあらわしていると思う。小学校の項から尿検査は行われてきたはずであるが、正しく理解しないままに受検してきたのだろうか。「糖尿病の発見」と回答した者が約15%前後あり、特に中2に多くみられた。尿検査では尿中の糖分も調べるが、学校における集団検尿の第1の目的はやはりたん白尿検出、腎臓疾患の早期発見である。おそらく「糖尿病の発見」と回答した者は、成人病としての糖尿病という言葉を目にしており、本質を握せずに単に尿の病気であれば糖尿病と想像して答えたのだろう。全体を通して非常に理解度の低い検査項目である。腎臓疾患が少なくない年代であるため特に尿検査の目的を理解させたい。また尿検査と腎臓の異常疾患の有無の関連づけだけでなく、尿と腎臓の関係から理解させる必要があると思う。

(3)内科検診の目的の認識

表Ⅲは「内科検診は何のために行うのですか」という質問に対する回答を示したものである。

表.Ⅲ 内科検診の目的の認識 ()は%

| | 中 1 n = 90 | 中 2 n = 82 |
|----------------------|---------------|---------------|
| 1. からたに異常(病気)はないか調べる | 50(55.6) | 40(48.8) |
| 2. 体質を調べる | 2(2.2) | 0(0) |
| 3. 消化器の異常疾患の有無を調べる | 4(4.4) | 2(2.4) |
| 4. 心臓の異常疾患の有無を調べる | 14(15.6) | 19(23.2) |
| 5. 内臓の異常疾患の有無を調べる | 8(8.9) | 12(14.6) |
| 6. D・K, N・A | 12(13.3) | 9(11.0) |

「体に異常がないか調べる」という漠然とした回答した者が両学年とも約半数いる。その中には「なぜをひ

いていないか調べる」などといった医者で診察を受ける時のように考えている者がたくさんいた。その他の「胃腸の異常疾患を調べる」とか「心臓の異常疾患を調べる」という回答をした者も含めると、内科検診は「からだの病気を調べるために行うもの」と考えている者がほとんどである。本来、内科検診では聴診器をあてることで、心臓の異常疾患や呼吸器の異常疾患の発見のための手がかりとしている。だが、消化器の異常疾患については調べていない。他に調べている項目としては、栄養状態、脊柱および胸郭の疾病及び異常の有無、皮膚疾患の有無、貧血の有無等である。つまり内科検診では、単に内臓器の異常疾患を調べているだけでなく、身体計測では発見できないような形態の異常についても調べている。したがって内科検診の目的を正しく認識させるために、形態の異常の有無も調べていること、さらに形態の異常がどのようにからだに影響を及ぼすかについても理解させるとよいと思う。

(4)ツベルクリン反応検査の目的の認識

表Ⅳは中2のみを対象にツベルクリン反応検査(以下「ツ反」と言う)の目的について「ツ反は何のために行うのですか」の質問に対する回答を示したものである。約58%の者が「わからない」と言っており、「病気にに対する予防接種」と回答している者が約30%いた。

表一Ⅳ ツベルクリン反応検査の目的の認識

| | 中 2 n = 82 |
|-----------------------|---------------|
| 1. 結核菌の有無の検査 | 0(0) |
| 2. 病気にに対する免疫をつくるための注射 | 22(26.8) |
| 3. 体質を調べるもの | 2(2.4) |
| 4. 何かの反応を調べるもの | 9(11.0) |
| 5. 日本脳炎、インフルエンザの予防注射 | 2(2.4) |
| 6. D・K, N・A | 47(57.3) |

()は%

ツ反は、結核罹患の減少やX線間接撮影においての被爆の問題により、昭和49年に結核予防法が改正され、今まで毎年全員に行われていたものが、その対象学年が小学校1年と中学2年だけになった。したがって今の中学2年生は、小学1年で1回だけ検査してきただけであり、ツ反の目的を知らないままに受検してもしかたないことなのかもしれない。それにしても極めて低い認識である。たとえ結核罹患率が低下したとはいえ、「結核」は存在するのだから、結核がどのような病気なのか理解させておく必要はあると思う。そして、ツ反は結核菌の有無の検査だということ、そしてその

事後措置についても理解させ、ツ反の目的の正しい認識を持たせなくてはならないと思う。

ツ反判定の時に生徒たちは、自分の前腕にでている反応については関心を持っていた。しかし、どうしてそのような反応がでるのか、また反応の大小はどうしてか、事後措置はどのようなことを何のために行うのか、全くわかっていないようであった。ただ単に反応の大小のみに関心がとどまっているのではなく、「どうしてだろう」という疑問をもってほしいものである。

○おわりに

以上、不十分ながら生徒の健康診断にとりくむ姿勢を知るための1つの資料として、生徒は諸検査の目的をどのように認識しているのか調査してきた。そしてそれは全体的にみて極めて低いことが明らかになった。田中は「健康診断に対して正しい理解認識を持つことは、将来、健康診断受診という保健行動を起こさせる動機付けのもとになる」と述べており、健康診断に対する積極的な姿勢が、自分の健康を主体的に管理していく上で極めて重要だといっている。したがって健康診断の本来の目的や、諸検査の目的についても正しい認識を持たせることも必要である。今後、この調査結果をもとに健康診断事前指導についても検討し、健康診断にとりくむ生徒の積極的な姿勢を検討していきたいと思う。

なおちょうど健康診断の時期であったために、諸検査の事前実施要項と諸検査の目的を書いた印刷物を配布した。そして諸検査の目的を認識させて受検させようと試みた。諸検査の終了後もう1度調査した結果は、表V～VIIIにあらわしたとおりである。

表一V 身体計測の目的の認識 ()は%

| | 中1 (n=88) | 中2 (n=84) |
|----------------------|--------------|--------------|
| 1. 身体の大きさや成長の度合いを知る | 64(72.7) | 55(65.5) |
| 2. からだのつりあいがとれているか知る | 15(17.0) | 14(16.7) |
| 3. 平均値をだして他と比較する | 0(0) | 0(0) |
| 4. 身長順位をきめる | 0(0) | 0(0) |
| 5. 健康のため | 1(1.1) | 3(3.6) |
| 6. D・K, N・A | 8(9.1) | 12(14.3) |

表一VI 尿検査の目的の認識 ()は%

| | 中1 (n=88) | 中2 (n=84) |
|-------------------------|--------------|--------------|
| 1. 腎臓病の発見 | 41(46.6) | 30(35.7) |
| 2. 糖尿病の発見 | 11(12.5) | 22(26.2) |
| 3. 尿の中にばい菌やぎょう虫がいまいか調べる | 13(14.8) | 13(15.5) |
| 4. 体に異常はないか調べる | 15(15.9) | 8(9.5) |
| 5. 腹部の病気を調べる | 0(0) | 0(0) |
| 6. D・K, N・A | 8(9.1) | 11(13.1) |

表一VII 内科検診の目的の認識

| | 中1 (n=88) | 中2 (n=84) |
|----------------------|--------------|--------------|
| 1. からだに異常(病気)はないか調べる | 56(63.6) | 39(46.4) |
| 2. 体質を調べる | 0(0) | 0(0) |
| 3. 消化器の異常疾患の有無を調べる | 0(0) | 0(0) |
| 4. 心臓の異常疾患の有無を調べる | 10(11.4) | 10(11.9) |
| 5. 内臓の異常疾患の有無を調べる | 8(9.1) | 11(13.1) |
| 6. D・K, N・A | 14(15.9) | 24(28.6) |

()は%

表一VIII ツベルクリン反応検査の目的の認識

| | 中2 (n=84) |
|----------------------|--------------|
| 1. 結核菌の有無の検査 | 53(63.1) |
| 2. 病気に対する免疫をつくるための注射 | 4(4.8) |
| 3. 体質を調べるもの | 0(0) |
| 4. 何かの反応を調べるもの | 7(8.3) |
| 5. 日本脳炎、インフルエンザの予防接種 | 0(0) |
| 6. D・K, N・A | 20(23.8) |

()は%

全体的にみて1回目の調査よりも諸検査の目的を知った者は多くなっている。特に表VIIIではツ反の目的を「結核」と結びつけている者は0%から約63%と増加している。しかしこれらの数

値の増加を諸検査の目的が認識されたと考えるには、危険がある。ただ知識を与えられたというにすぎないかもしれない。印刷物配布は、事前指導の1つの方法ではあるが、さらに生徒の理解を深めるためには他の方法も考慮して併用していく必要がある。(服部)

参考(引用)文献

- 1) 田中恒男：健康診断の事前指導を保健行動論から考えてみる 「健」 1976年
- 2) 川上幸三：健康診断諸検査の目的、意義に関する山本道隆 児童・生徒の認知について 「健康教室」 1980年
- 3) 船川幡夫：「学校における健康診断」 東山書房 能美光房